生物多様性保全

自然と共生していくための積極的なアクションを

近年、私たち人類が多くの恩恵を得ている生物多様性が深刻な危機に瀕しており、その保全が地球規模の課題となっています。2010年は、国連が定めた「生物多様性年」であり、10月には名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が開催されることから、国内でも関心が高まっています。こうした背景のもと、NTTグループ各社は、それぞれの事業特性に応じたさまざまな活動を進めています。

Topics 1

架線工事技術を活用した絶滅危惧種保護の取り組み

NTT東日本山梨支店グループおよび技術協力センタでは、2009年4月から、(財)キープ協会や建設会社などが取り組んでいる「アニマルパスウェイ」構築を支援しています。

「アニマルパスウェイ」の改良風景

「アニマルパスウェイ」とは、道路によって分断された森をつなぐための橋などを指し、絶滅の危機にあるヤマネをはじめとした小動物たちの通り道となりますが、その構築・整備には、高所に架線するための設備や技術が不可欠です。同支店では、高所作業車および作業者の提供など、これまで通信網の敷設で培ってきたノウハウを生かして、生物多様性保全に貢献しています。

Topics 2

太陽光発電施設と地域自然環境との共生を推進

NTTファシリティーズ

NTTファシリティーズでは、NEDO※からの委託事業「大規模電力供給用太陽光発電系統安定化等実証研究」にあたり、「太陽光発電施設と周辺地域自然生態系の共生」に取り組んでいます。

カヤネズミ

太陽光発電設備の構築にあたり、事前に生態系を調査したところ、山梨県レッドデータブック要注目種である「カヤネズミ」の生息が明らかとなったため、「カヤネズミ保護区」の設定や、「アニマルパスウェイ(動物の移動トンネル)」を設置し、発電設備の構築による生息区域の分断・孤立を防ぎ、生態系保全への配慮に努めるとともに、現在は設備構築前後における生態系の変化を調査しています。

こうした取り組みの結果、同施設は世界初の「カヤネズミの棲む太陽光発電所」となり、地球温暖化対策と生物多様性保全を同時に実現した優良事例として取り上げられています。

※NEDO
(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構。

Topics 3

「環境goo」などインターネットを利用した環境貢献活動を展開

NTTコミュニケーションズグループのNTTレゾナントは、日本有数のポータルサイト「goo」を軸に、インターネットを通じた環境貢献活動を展開しています。

「環境goo」

例えば、1999年からは環境ポータルサイト「環境goo」を提供。そのなかで、環境に関する情報発信に積極的な個人や団体を表彰する「環境goo大賞」や、検索サービスの収益を環境保護団体に寄付する「緑のgoo」など、さまざまな取り組みを実施しています。

Topics 4

国内48カ所に総面積約192ヘクタールの「ドコモの森」を設置

NTT docomo

NTTドコモは、自然環境保全活動の一環として、「ドコモの森」づくりに取り組んでいます。これは、社員やその家族が、下草刈りや枝払いなどの森林整備を通じて、自然とふれあいながら環境保護意識を高めることを目的とした活動です。

ドコモの森の整備風景

林野庁の「法人の森林」制度※1や(社)国土緑化推進機構の「緑の募金」制度※2、「企業の森づくり」サポート制度※3などを活用して、全国各地で取り組みを進めており、2010年3月末現在で全国46都道府県に48カ所、総面積約192ヘクタールに広がっています。

今後も活動フィールドの拡大に努めるとともに、持続的な活動として、全ての「ドコモの森」で整備活動を実施し、生物多様性の保護に貢献していきます。

※1 「法人の森林」制度
林野庁と法人が森林を育成・造成し、伐採後の収益を分け合う制度。

※2 「緑の募金」制度
緑の保全、森林の整備、緑化の推進、緑を通じた国際協力などの森林づくりのための募金事業。

※3 「企業の森づくり」サポート制度
都道府県や都道府県緑化推進委員会などが中心となり創設された制度。

廃棄物の削減とリユース・リサイクル

グループ社員とその家族から使用済みの携帯電話を回収

NTT docomo

NTTドコモでは、お客さまからだけでなく、グループ社員とその家族からも使用済みの携帯電話を回収しています。

2009年度も全国のグループ会社と協力して回収活動を実施し、携帯電話4,832台、電池4,564個、充電器3,279個を回収しました。これらは、お客さまから回収した携帯電話と同様にリサイクルされ、貴重な資源に生まれ変わります。

2010年度も社員に環境活動への参加を積極的に呼び掛けて、この活動を継続する予定です。

取扱説明書を大幅にスリム化

NTT docomo

NTTドコモは、紙資源の有効利用を目的として、携帯電話の取扱説明書のページ数削減に取り組んでいます。従来、取扱説明書は約500ページありましたが、見やすさとわかりやすさを追求し、イラストなどを多用して基本情報のみに絞ることで約130ページに削減しました。

さらに、お客さまの利便性に配慮して、携帯電話に「使いかたガイド」を搭載し、携帯電話から使用方法を確認できるようにしました。また、より詳細な説明は、ドコモのWebサイトにPDFファイルで掲載しています。

スリム化の結果、2009年度は、取扱説明書に使う紙の量を従来と比較して約1,000t削減しました。また、軽量となったことで、携帯電話を輸送する際のCO_2排出量も削減しました。

パソコンなどのIT機器もデータを消去したうえで再商品化

NTT東日本　NTT西日本

NTT東日本、NTT西日本では、企業において不要となったパソコンを回収・リユースする「IT機器回収サービス」を2002年7月から提供しています。

このサービスは、パソコンのハードディスク内に格納されたデータを完全消去したうえで、中古品として買い取り、商品としてリユースするというもので、情報漏えい防止と廃棄物の削減、処分コストの削減に貢献しています。

なお、データ消去にあたっては、ICカードによる入退室管理などのセキュリティ対策を徹底し、データ消去センタ内に設置されたWebカメラを介して、お客さまに消去作業の模様をリアルタイムでご確認いただいています。

2009年度は11.1万台（NTT東日本4万台、NTT西日本7.1万台）のパソコンを回収しました。2010年度には、サービスの利便性および効率向上のため、ネットワーク経由でパソコンのデータが消去できるよう、サービスをバージョンアップする予定です。

不要になった携帯電話を累計約7,254万台回収

NTT docomo

携帯電話には、金、銀、銅、パラジウムなどが含まれており、鉱物資源の少ない日本にとっては、貴重なリサイクル資源といえます。

NTTドコモは、1998年から使用済み携帯電話の回収・リサイクルに取り組んでおり、2001年には、（社）電気通信事業者協会と連携して、自社・他社製品を問わずに回収する「モバイル・リサイクル・ネットワーク」を構築。2009年度は約376万台、累計で約7,254万台を回収しました。

こうした取り組みをいっそう推進していくために、ドコモショップでの「回収PRステッカー」の掲示や各種イベントなどにより、お客さまへの周知・PR活動に努めています。

※ 回収BOXは一部地域のイベントで使用しています。

回収BOX

生物多様性の保護

自然保護活動を応援するWebサイト「生きもの情報館」を構築・寄贈

NTTデータは（財）日本自然保護協会の、「生態系と生物の多様性を守り、持続的な社会を目指す」という趣旨に共感し、その活動を支援するために、里やまをはじめとする身近な自然に生息する“生きもの”の情報を集める市民参加型Webサイト「生きもの情報館」を構築し、2009年3月に寄贈しました。

このサイトは、日本全国の方々に生きものの観察記録を登録いただき、その情報を解析することで、地域の自然保護活動に反映することを目的としています。インターネット上で広く一般に公開され、利用者はサイト上で会員登録することで、観察記録の登録や分布図の作成を簡単に行なうことができます。今後は「生きもの情報館」を使った自然観察会の開催など、自然保護活動の輪を広げていく取り組みを予定しています。

「生きもの情報館」サイト画面

フィリピンPLDTグループとの協働による植林活動

NTT docomo

NTTドコモは、フィリピンでの植林活動を通じて豊かな森林を守り、CO_2排出量の削減や生物多様性の保護に貢献しています。この活動は、出資先であるフィリピンの電話会社PLDTグループと協同で、2008年夏から実施しているものです。

植林の費用には、ドコモショップで回収した使用済み携帯電話のリサイクルを通じて得た売却代金の一部を活用しており、お客さまも回収に協力いただくことで、資源の有効活用や環境保全に貢献することになります。2009年度は、フィリピン各地において、地域ごとの特性を生かした自生樹木種を約36万本植林しました。引き続き、2010年度もこの活動を継続していく予定です。

「時とともに美しさを増す街づくり」を目指して

NTT都市開発
NTT Urban Development Co.

NTT都市開発は、ハウスメーカー4社※とともに、福岡県糟屋郡新宮町のNTT社宅跡地に戸建住宅を開発・分譲するプロジェクトを実施しています。

この「ウェリスパーク新宮 杜の宮」では、時を重ねるにつれて美しさを増す街づくりを目指しています。それぞれの家の個性は尊重しながらも、建築協定や緑地協定、街並みガイドラインによって“家づくりのルール”を定め、緑に彩られた統一感のある景観が形成されるようにしています。

また、敷地内のパブリックスペースをできるかぎり緑化し、木々が育つにつれてより多様な虫や鳥が訪れることができるように、混交林をイメージした寄せ植え状の植栽を行なっています。

※ ハウスメーカー4社
大和ハウス工業（株）、トヨタホーム（株）、住友林業（株）、西日本鉄道（株）

ウェリスパーク新宮 杜の宮

無線中継所周辺の生態系保存への配慮を徹底

NTTコミュニケーションズは、2010年3月末時点で、全国に22カ所の無線中継所を保有していますが、そのうち10カ所が国立公園内に位置しています。

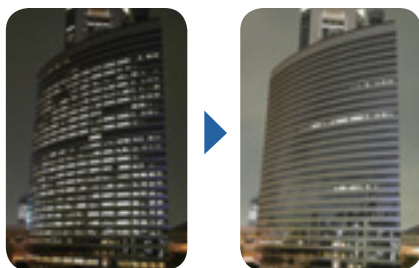
国立公園内は、道路が整備されていない箇所が多く、中継所の巡回保守のために道路の敷設が必要になる場合があります。そうした場合には、法令遵守の徹底はもちろん、独自の環境アセスメント手法に基づき、生物多様性に配慮して敷設しています。具体的には、建設予定場所の植物、鳥類、昆虫などの生息分布を事前調査し、その分布を壊さないような建設計画を立てています。とくにレッドリストに該当する動植物の生息が確認された場合は、第三者機関の行政やNPO法人などと連携し、生物多様性に配慮した建設計画としています。

環境コミュニケーションの推進

「七夕ライトダウンキャンペーン」で約5,900世帯分の電力を削減

NTTグループ

NTTグループは、グループ社員が日常生活のなかで温暖化対策を実践していくきっかけづくりを目的として、環境省主催のキャンペーン・イベントである「ライトダウンキャンペーン」に積極的に参加しています。

2010年度は、クールアース・デーである7月7日に実施される「七夕ライトダウン」にグループ全体で参加しました。全国971カ所の拠点が参加し、20時以降の施設内の照明や看板の消灯を呼びかけた結果、約5.8万kWhの電力量の削減効果が得られました。この数字は、約5,900世帯が1日に消費する電力量に相当します。

NTT東日本 本社ビル　左:消灯前　右:消灯後

「環境・社会報告書シンポジウム」を開催

NTTグループは、環境省と経済産業省の後援のもと、2007年から「環境・社会報告書シンポジウム」を主催しています。

このシンポジウムは、環境・社会報告書の作成者側と読み手側のギャップの解消を図るため、読み手から求められる報告書の姿を調査・分析するものです。企業の報告書制作担当者を主な対象として、企業が社会的責任を果たしていくため考えるべきことや、読者に伝えるべきことを把握するための"気づきの場"と位置づけています。

2009年度は、12月11日に環境展示会「エコプロダクツ2009」において、「2050年・CO_2 8割削減を可能にするイノベーションとは?～社会経済システムと脱炭素のシナリオ」をテーマとしたパネルディスカッションと、NTTレゾナントが運営するインターネットアンケート・サービス「gooリサーチ」の「環境・社会報告書に関する意識調査」の結果報告を実施。約420人の方々にご来場いただきました。

収益の15%を寄付する特別企画「緑のgoo」を開始

NTTコミュニケーションズグループのNTTレゾナントは、ポータルサイト「goo」内で1999年から提供している「環境goo」において、環境に関する国内外のさまざまなニュースを発信しているほか、環境保全に力を入れている企業のトップインタビュー、環境教育コーナー、環境キーワードを網羅的に解説した用語辞書などを掲載しています。

また、同サイトでは、環境保全や社会貢献活動に関する情報をインターネットを通じて積極的に発信している企業や行政機関、NPO・NGO、独立行政法人・国立大学法人、個人などを審査・表彰する「環境goo大賞」を毎年実施しています。2009年度は9サイトが表彰されました。

2007年8月からは、検索するだけで環境保護活動を支援できる「緑のgoo」を開始。gooのWeb検索機能をご利用いただくことで得られた収益の15%相当を環境問題に取り組む団体に寄付するもので、2010年1月までに10団体に累計1,440万円を寄付しました。

さらに、2009年12月からは、「緑のgoo」内で「100万本のクローバーキャンペーン」を開始。グリーティングカードやブログパーツなどで知人や友人に「緑のgoo」を伝えると、サイト上にクローバーがたくさん育っていくもので、ユーザーの輪を広げることで、より多くの方々に簡単に楽しんで環境保護活動を支援できる場を提供します。

「緑のgoo」の画面
http://green.goo.ne.jp/

「100万本のクローバー」の画面
http://clover.green.goo.ne.jp/index.html

在宅勤務制度の導入によって環境負荷を低減

NTTグループ

近年では、ICTを活用して、ネットワークを通じて自宅などでもオフィスと同様の業務環境を実現する「テレワーク」が普及しつつあります。通勤が不要になることで移動にともなう環境負荷を低減できることから、社会全体で普及を促進する動きが見られています。また、就業者にとっては柔軟な働き方によるワークライフバランスの向上が期待できます。

こうしたことを踏まえて、NTTグループでは各社で在宅勤務制度の導入を推進。NTTコミュニケーションズに続いて、2010年度からNTT西日本、NTTドコモが在宅勤務制度を本格的に運用しています※。

制度の導入・運用にあたっては、ワークライフバランスのほか、環境負荷低減の観点からも社員に説明することで、環境意識の啓発にもつなげています。

遠隔学習システム「MICE（マイス）」を使ってグループの環境担当者の勉強会を開催

NTTグループ　NTTLS

NTTラーニングシステムズは、集合研修とeラーニングの長所を融合させた遠隔・双方向学習システム「MICE（マイス）」をお客さまに提供しています。

このシステムは、スタジオで撮影した講義をNTTのブロードバンドネットワーク「Bフレッツ」を使って全国の離れた教室に送信し、教室では受講生がプロジェクターなどに映し出された講師の映像を見ながら臨場感あふれる講義を受講できるというものです。受講生の机に設置されたパソコンは、講義に使用するテキストの表示、講師への質問入力、アンケートの集計・表示などに利用できます。

NTTグループでは、このシステムを使って毎年環境担当者を対象とした勉強会を開催しています。2009年度は、東京と大阪の2会場で開催し、152人が参加しました。

環境川柳やポスター掲示、エコシアターなど、さまざまな環境啓発・教育を実施

NTTグループでは、社員一人ひとりの環境保護に対する意識向上を図るため、新入社員研修の場を利用した環境教育を実施しています。研修では、NTTグループの環境保護活動の考え方や体制、主要な活動内容と実績などを紹介するとともに、環境負荷低減につながる技術開発の重要性や今後の計画・目標などを説明し、理解を促しています。

このほかにも、グループ全体で環境に関する社員の啓発活動を展開し、社内のさまざまな場所にクールビズやウォームビズを推奨するポスターを掲示しているほか、イントラネットやエコカードの配布、環境川柳の募集・発表、環境フォトコンテストの開催などに取り組んでいます。

日本情報通信では、2008年度より、社員に対する環境啓発・教育の一環として、環境をテーマにした映画の上映会「エコシアター」を、定期的に開催しています。2009年度は、2010年3月に開催し、地球温暖化や環境について考える映画を上映。グループ各社から20人が参加しました。

エコシアター

「第13回 環境経営度調査」（日本経済新聞社）でグループ5社が上位にランクイン

NTTグループ

2009年12月に発表された「第13回 環境経営度調査」（主催：日本経済新聞社）の通信・サービス部門において、上位10社中5社をNTTグループが占め、グループ全体で高い評価を獲得しました。

この調査は企業の環境対策を総合的に評価するため、日本経済新聞社が1997年から毎年実施している調査で、企業が温暖化ガスや廃棄物の削減といった環境対策と経営効率の向上をいかにして両立しているかを評価するものです。